

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立桜の宮中学校



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成31年3月13日（水）

■ク ラ ス：2年1組（36名）

■オリンピアン：石橋 千彰 先生（水泳／競泳）【出場オリンピック／ロンドン大会】

■授業のながれ：運動の時間（5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、3つのオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、頑張る」「フレンドシップ＝友情、協力する」「リスペクト＝尊敬、敬意を表する」と説明。運動の時間は全力で楽しんでほしいと話し、①全力で身体を動かすこと、②しっかりと声を出してお互いにコミュニケーションを取ること、③心から相手を思いやること、の3つを意識するように伝え、準備体操に移る。
・簡単なストレッチの後、ボール取りゲームを全5回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・8の字跳びを60秒間×3回実施。皆で工夫をした結果、記録が伸び、皆が楽しんでくれていることも伝わってきたと話す。
・全員跳びを実施。8の字跳びは3チームに分かれて行ったが、クラス全体で団結してほしいと伝える。

4. まとめ



・工夫をすることで記録が伸びることがスポーツの楽しさであり、その楽しさはオリンピアンだけでなく皆が感じ、共有できるものである。結果はどうであれ挑戦することこそが成功への道であり、成功する人は皆挑戦をしている。「成功」の反対は「失敗」ではなく「挑戦しないこと」であり、挑戦しなければ何も生まれないと伝える。運動の時間は皆楽しんで取り組んでくれてよかったと話し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・石橋先生の経験をお話するので、皆の気付きやモチベーションアップにつなげてほしいと授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、自分に負けない、頑張る、努力する」、「フレンドシップ＝友情、仲間と協力する」、「リスペクト＝敬意/尊重、感謝の気持ちを忘れない」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：①これから頑張りたいことや今頑張っていること。②仲間と協力してできていること。③感謝したい人、こと。の3つについて考えよう。
- 発表：①：「吹奏楽で全国に行く」「受験勉強を頑張る」「サブの入る確率を上げたい」「筋トレを頑張っている」「対戦ゲームで優勝する」「小さい目標も立てる」等
- ②：「友達と勉強を教え合う」「盛り上がる時は最高に盛り上がる」「受験へ向けた教室内の雰囲気作り」「友情を深める」「清掃活動」等
- ③：「親にお礼を言いたい」「先生に感謝したい」「優しく教えてくれた先輩」「今までお世話になった人に恩返しする」「人としての在り方を指導してくれた先生」等

4. まとめ



- ・考えを書き出すことによって、次の1歩を踏み出すことができる。書き出したことを実行するか否かは自分次第だが、行動に移すことができれば、将来大きな夢の実現につながるかもしれない。オリンピックはスポーツの祭典ではあるが、スポーツだけでなく、勉強を頑張っている人にとっても、第一志望の大学へ進学する等の夢を自分にとってのオリンピックと捉えることもできる。自分の中の最高の到達点を決め、そこに向かって一歩踏み出してほしい。
- ・時には失敗することもあるかもしれないが、次に行動する時は成功する可能性もある。何かを成し遂げたいのであれば、失敗を恐れずに挑戦してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

2年1組

